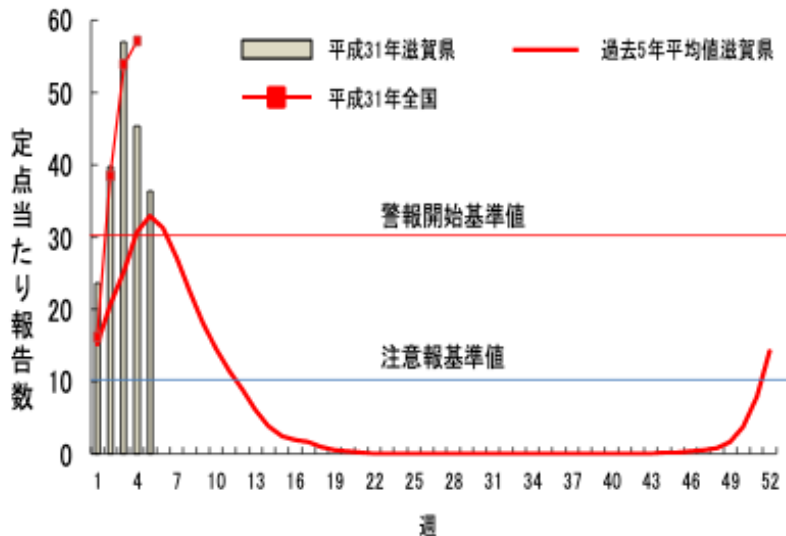


外科 マンスリーレター 2019.3

平成31年インフルエンザの動向

外科・消化器外科・乳腺外科 医長 大江秀典



当院感染制御チーム (ICT)

3月マンスリーレター担当の大江です。専門は肝胆膵外科ですが、感染症科も兼務しており、感染制御チーム (ICT) の担当です。今回は病院としてのインフルエンザに対する取り組みについてご報告いたします。おそらく本マンスリーレター発行時にはインフルエンザは収束しつつあると思いますし、そうあってほしいと願っています。

上記に示しましたのは滋賀県感染症情報センター発表のインフルエンザ発生動向(2月7日現在)です。平成31年度は過去5年平均の倍以上の患者数を記録し、大流行とって良い状況です。当院の救急外来は特に正月休み中、戦場のような様相を呈しておりました。

昨年当院は2回のインフルエンザによる病棟閉鎖を経験し、皆様にご心配をお掛けしました。大学病院等他施設の振り返りも参考に、今シーズンは以下の対策をとっています。

- ・職員、面会者は感染を広げないためにマスクを着用する
- ・不要不急の面会は控えていただく
- ・各病棟でのインフルエンザ同時発生(スタッフ、患者含む)が3例の段階で、予防内服を早急に考慮する

今回特に力を入れたのは3つめの予防内服です。当院の経験でも他施設の報告でも予防内服の有効性が実感されています。発病を予防するだけでなく発病してもウイルスを広げにくくするためであろうと考えています。2月20日現在、2病棟にて実施し、この対策が有効であるとの感触を得ています。

まだまだ気を抜く状況にはありませんが、引き続き皆様のご期待に応えられるように努力を続けて参ります。